

伊豆沼・内沼流域の湿原に生育するカキツバタ。
初夏の湿原を彩ります。

Vol.133

令和3年度7月号

ゼニタナゴが泳ぎ始めた伊豆沼・内沼

希少魚ゼニタナゴが本格的に回復し始めているかもしれません。昨年の調査では11個体の稚魚を沼で見つけましたが、今年は101個体に増加。バス駆除の効果もあり順調に沼で繁殖しているようです。数えきれないほどの稚魚がいた90年代半ばの伊豆沼・内沼の光景が戻ってくる日は遠くないと期待しています。



バス駆除奮闘中（人工産卵床、稚魚すくい）



人工産卵床

矢印が体長2cm程のバス稚魚

黄色の点々がバスの卵

2004年から続けてきたバス駆除活動。新型コロナウイルス蔓延防止のため、バス・バスターズの皆さまには、今年度も中止をお伝えせざるを得ませんでした。しかし、外来魚は待ってくれないため、職員で駆除活動を継続しています。今年度はこれまでに、電気ショッカーボートで成魚44尾、産み付けられた卵を回収する人工産卵床で3ヶ所、稚魚を網で捕獲する稚魚すくいにて277尾をそれぞれ駆除しました。長年の駆除活動により、オオクチバスはピーク時と比較すると数十分の1に減少しましたが、まだ繁殖しています。活動を継続し、着実に防除していきたいと思っております。

ハスの生育状況

伊豆沼・内沼は、わが国を代表するハスの生育地となっており、夏になると湖面の大部分がハスに覆われます。このハスですが、実は南国出身のため寒さに弱く、スロースターターです。最近になり、ようやく湖面にハスの浮葉が目立つようになってきました。生育はやや遅れ気味ですが、冷夏や日照不足などの気象による影響を受けない限り、お盆の前後には今年も例年並みに花を咲かせることでしょう。



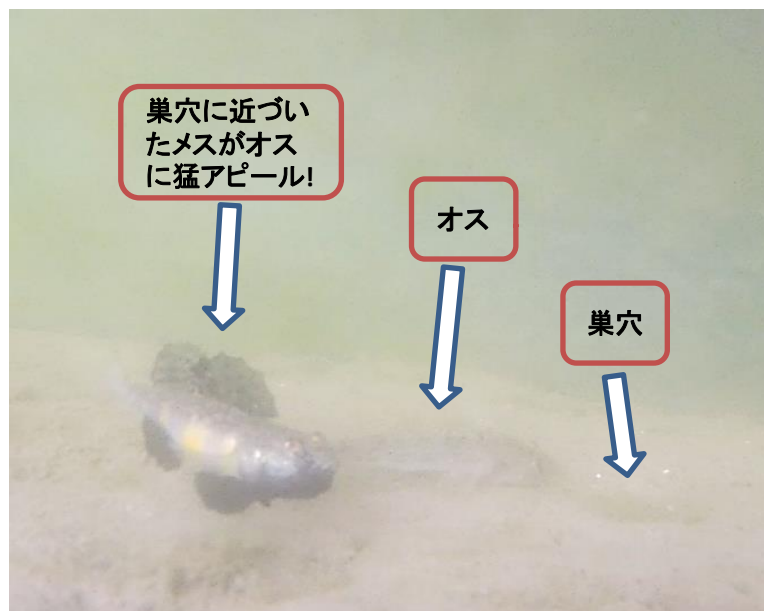
「鳥の渡り生態学」(樋口広芳編)で分担執筆

東京大学出版会から出版された「鳥の渡り生態学」(樋口広芳編)の第1章「ハクチョウ類・ガン類・カモ類の渡り」を当財団の嶋田研究室長が分担執筆しています。これまで日本で衛星追跡された9種のガンカモ類の渡りについて総括した内容となっています。詳細は下記の東京大学出版会のホームページをご覧ください。

<http://www.utp.or.jp/book/b577415.html>



伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ジュズカケハゼ～



ジュズカケハゼは、平野部の河川や湖沼に生息している5cmほどのハゼの仲間です。性格は温厚で水面に浮かんでいることが多く、伊豆沼では外来魚に食べられ数を減らしています。この魚は繁殖のときに、泥の中に掘った巣穴に卵を産むという面白い生態を持っています。そこで、当センター水槽で繁殖行動の観察に取り組みました。

オスは飼育を始めて約10日程で水槽内のいたるところに巣穴を掘ります。その後、巣穴の近くでオスと出会ったメスは、鰭(ひれ)を一瞬にして真っ黒に染め、体をくねらせゆっくりとオスに寄り添うように泳ぐ姿が見られたほか、別のメスが近づくと、威嚇するような行動も見られました。引き続き、生態観察を行い、保全のための研究に役立たせていきたいと考えています。

伊豆沼・内沼クリーンボランティア(団体)募集のお知らせ

伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン実行委員会及び当財団で、これまで自然環境の維持、保全を目的に毎年実施してきたクリーンキャンペーンですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、過去2年間は清掃活動を中止せざるを得ない状況となっております。こうした状況を踏まえ、今年度から新たに沼全域の清掃活動(ゴミ拾い)を行うためのクリーンボランティア(団体)を募集することになりました。

詳しくは、下記に記載されている当財団のホームページをご覧ください。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳上畑岡敷17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

